

ふるさと発見

ちがさき丸ごと博物館

(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

ちがさき・里山の秋



神奈川県立茅ヶ崎里山公園

まっ赤な秋が

茅ヶ崎市北部に、平成13年に一部開園してから8年余、今まで里山公園を訪れた方はかなり多いのではないのでしょうか。子供の村で何度も遊具で遊んだ親子、春のタケノコ堀り、春秋の里山まつり、田畑の手入れと収穫、自然観察会、地産地消をめざす農作物の販売など、大勢の人で賑わっています。散策やスケッチに訪れる方も多く見かけます。秋には平成の森で紅葉・黄葉のイロハモミジやコナラのほか、ドングリをつけたシラカシやクヌギを散策路で見つけることができるでしょう。



柳谷北端、小出川周辺の秋の風景、遠望は大山 (写真提供 坂井源一さん)

谷戸あり丘あり広場あり

ここは高座丘陵の一部です。堆積した箱根や富士山の火山灰が浸食され多くの谷ができ、起伏に富んだ地形になっています。そのうち柳谷の大部分と中ノ谷の一部が公園で、36.8haのうち約半分が現在開園し、平成26年度全面開園を目指して整備中です。里山であった当時の景観を保ちつつ、より豊かな生態系を育てていくことが望まれています。



〔芹沢の池〕 調整池として造られた池ではカモ類やカワセミも飛来し時には猛禽類が上空を滑空しているのを見ることができます (写真提供 坂井源一さん)



柳谷北部から南への道 写真提供 坂井源一さん

水田の稲穂が垂れる秋には案山子の姿や稲架の風景も見られます。県民・市民の協力もあり田畑林などが手入れされて希少な動植物も育ち、柳谷は多様な環境がある所となっています。



柳谷の可愛い案山子 写真提供 高橋正純さん



写真提供 岩本和代氏

ここは四季を通じて楽しむことができる公園です。この秋色づいたカラスウリやアケビをさがしてみませんか。

全文章提供 岩本和代さん



コガモ



トンビ



ノスリ

芹沢の池で観察された鳥類 写真提供 文化資料館

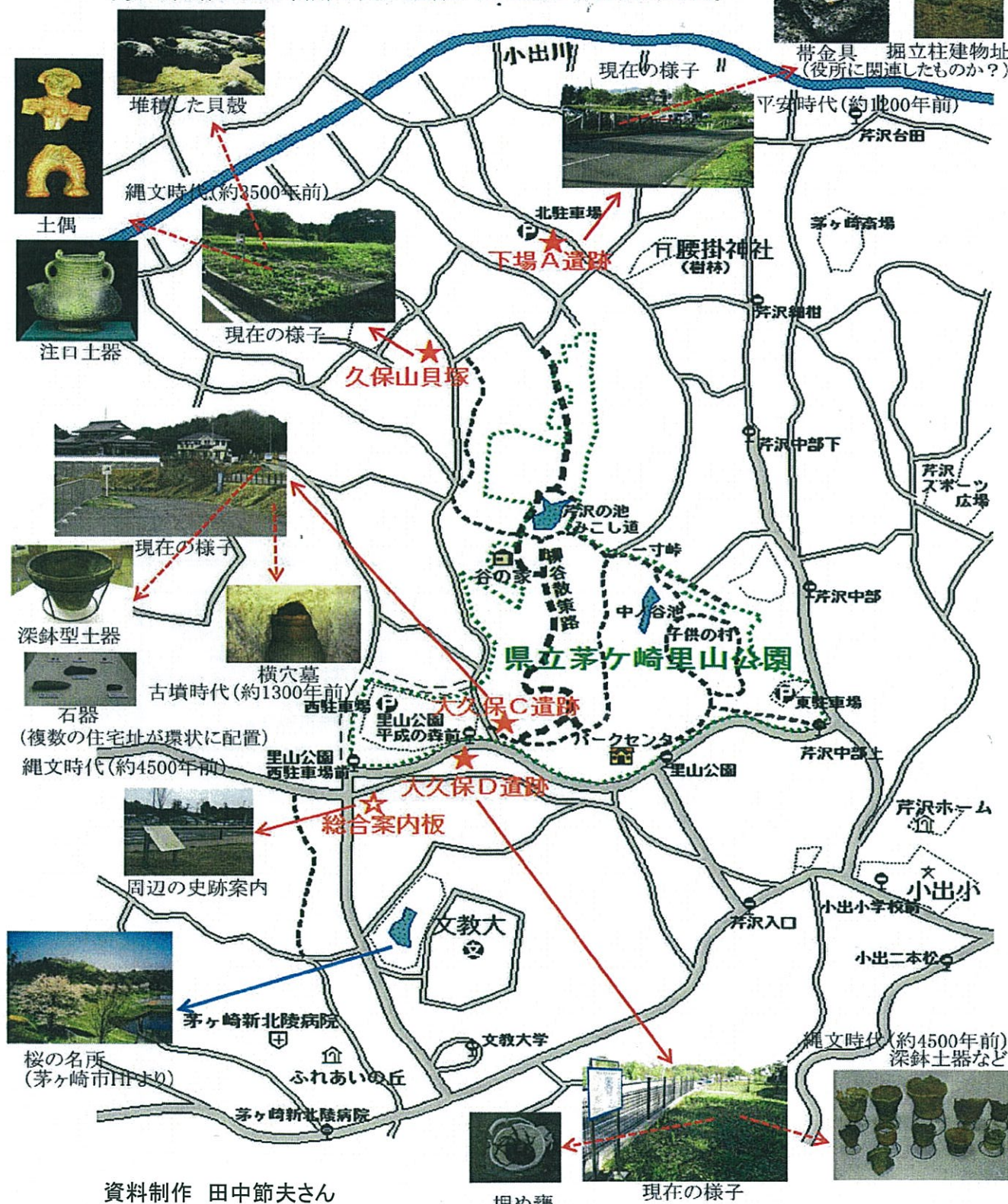
里山の林や湿地は

柳谷の斜面林について地元の方に聞きますと、昔は薪炭材として利用価値の高かったクヌギやコナラの他にサクラやエノキ等の落葉広葉樹を植えたそうです。多くの生き物を育む林です。薪炭にするため当時切られた株元から萌芽した数本の木が、利用されなくなった今では高く聳えているのを各地で見かけます。これも里山の雑木林の名残りです。薪炭の需要がなくなると、マツ、スギ、ヒノキなど木材として有用な木が栽培されましたがマツは一斉に枯れてしまったとのこと。今は自然植生の常緑広葉樹も一部に生育していますが農家の屋敷林跡にあるタブノキ、シラカシは見事な景観を醸し出しています。手入れされたモウソウチク林も見逃せません。日当たりのよい土手ではホタルブクロやクサボケなど里山になじみの花が咲き、林床には多種のシダ植物が生育するシダの宝庫でもあります。

里山公園周辺で見つかった ”大昔の生活の跡”

里山公園の外周道路の建設時に、縄文時代(約4500年前)から平安時代(約1200年前)の人が生活していた跡が発見されました。

ふるさと発見



資料制作 田中節夫さん

里山公園周辺で見つかった遺跡の概要(前ページより)

大久保C遺跡とD遺跡 縄文時代中期から後期はじめ(4000年前頃)まで数百年間続いた大規模なムラ。C・D両遺跡とも20軒以上の堅穴(たてあな)住居跡と食料などを保管する穴(貯蔵穴)や墓と思われる穴(土坑墓(どこうぼ))のほか、柱の穴と思われる小穴が多数発見されました。住居跡は台地の縁辺に輪を描くように配置され、中央の平坦面には集会施設をはじめ貯蔵穴群や墓地などムラ共有の空間が整備されていたようです。このようなムラは環状集落(かんじょうしゅうらく)とよばれ、縄文時代中期に多くみられる大型のムラです。このムラの堅穴住居には入り口部に甕(かめ)が埋設されているものが多く、ほとんど完全な形の土器も多く掘り出されました。神奈川県をはじめとした南関東の縄文人たちは、出産時の胎盤(たいばん)や乳児の亡骸(なきがら)を納めた甕を住居内に埋め、日々これを踏み歩くことで子供たちの成長を願う「埋甕(うめがめ)」の風習もついていたと考えられています。

大久保横穴群 大久保C遺跡の南西斜面で新発見の横穴墓(おうけつぼ)が3基発掘調査されました。墓室((玄室(げんしつ))は平面形が羽子板状をしており、造り付けの棺座(かんだ)には石が敷き詰められていました。古墳時代後期~奈良時代初め(約1300年前)のもので、この地域を治めていたムラオサ(村長)の墓地と考えられています。

下場(げば)A遺跡 腰掛(こしかけ)神社の周辺に広がる低位台地の一面にあり、西に接して柳谷(やなぎやと)が南北に流れています。遺跡の周囲はきれいに整備された畑地が広がっています。弥生時代終末(1800年前)と古墳時代後期を中心とした古代のムラが発見されました。庇(ひさし)を有す建物をはじめ掘建柱(ほったてばしら)建物跡(平地式または高床式)が並び、役所関連施設と考えられています。下寺尾の高座郡衙(たかくらぐんが)に関連した出張所的な役割をもっていたことを想定することができます。

久保山(くぼやま)貝塚 縄文時代後期(3500年前)の貝塚。大きさは12㎡程度で、ダンベイキシヤゴとヤマトシジミを主に厚さ約40cmの貝層が、柳谷の西斜面に多量の縄文土器類とともに発見されました。土器は、ほぼ完全な形の注口土器(土瓶型)多数をはじめ、多量の深鉢、浅鉢などが出土しましたが、それらに混ざり、髪型のわかる土偶の上半身、また模様をもつ下半身も出土しました。土器の出土状況としては市内でも最も濃密な遺跡といえることができます。

開高健 生誕80周年、開高健記念館では、今秋いろいろな企画があるようで楽しみです。大江健三郎「死者の奢り」と争った芥川賞「裸の王様」を思い出すが、それ以前に発表された「パニック」が私には印象的。カミュの「ペスト」をおもわせるような迫力で自然派の片鱗をうかがわせます。記念館の館長さんの森さんと話しているとどうしても、あの「洋酒天国」へ話題がゆき、開高健、山口瞳、柳原良平のサントリー宣伝部三人組の話になってしまいます。トリスおじさんのトリスパーでハイボールを48杯もあけた思い出が夢のようです。(高橋正純さん)

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の役割

- ・茅ヶ崎市内の都市資源を今の形のまま残していきます。(保全)
- ・茅ヶ崎市内の都市資源を育てていきます。(保護・育成)
- ・茅ヶ崎市内の都市資源を市民をはじめ多くの人に知ってもらいます(普及・啓発)
- ・茅ヶ崎市内の都市資源を活用していろいろなイベントを行い、参加します。
- ・茅ヶ崎市内の都市資源をめぐる散策ルートをつくり、多くの人が各地域を訪れることにより、地域の産業や商業が活性化することを応援します。
- ・地域の活性化により、都市資源が地域の大切な宝物として、地域の人により護られていく雰囲気や育つことを応援します。

編集後記

・4号での茅ヶ崎の顔、海から一転して、5号では茅ヶ崎の北部丘陵地帯にある別の顔、里山をとりあげました。北部には多くの谷戸があり、四季折々、多彩な景観が広がり、多くの野鳥を見ることが出来ます。また、一万年以上も前からの古人の足跡も多く残されています。家族で、友達と、また、一人でカメラ片手に、彩られた秋の里山を散策されては如何でしょうか。
・本誌にご協力いただいた岩本さん、坂井さん、田中さんにお礼申し上げます。
(編集長 富永、編集委員 川合、高橋、池上(5号担当))

◎お詫びと訂正

本誌第4号の1ページ下から16行目(文字列)の 天年間 は 天保年間 の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館

事務局 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当
〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1 Tel 0467-82-1111内線3342

//////////E-mail: shakaikyouiku@city.chigasaki.kanagawa.jp//////////